



Contents

- ・【巻頭エッセー】
図書館は知識“浴”の場…菊池幸夫 ●表紙
- ・ Library Data 2017 ●2～5
- ・館長室へようこそ ㊟…古川聡 / 雑誌の部屋 ㊟ ●6
- ・【私のおすすめ】…小畑有史 安藤友里恵 ●7
- ・ Information ●8

Parlando

ぱるらんど 「語りかけるように歌う」という意味の楽想記号です

No. 299

【巻頭エッセー】 図書館は知識“浴”の場

菊池 幸夫

私が国立音楽大学に非常勤講師として着任したのは、かれこれ20年以上前のことです。当時の図書館にはまだパソコン検索はなく、資料カードを1枚1枚めくっては資料を探し出し、紙に請求番号を記入してカウンターに持って行くやり方でした。今考えると、実に時間のかかる煩雑な方法ですが、学生時代からの手馴れたカード捌きでもって、素早くお目当てを掘り当てていました。今でもその指の感触、そしてびっしりと並んだ資料カードのなんともいえない匂いは、図書館の思い出とともにはっきりと覚えています。

学生時代、芸大の図書館は当時は所蔵資料があまり十分でなかったため、もっぱら東京文化会館の4階にある音楽資料室に足繁く通いました。試聴、閲覧しかできませんでしたが、そこで数多くの20世紀の前衛音楽に出会いました。レコードに針を落とし、スコアを開いては、「この時代に、すでにこんな新しいことがやられていたなんて…」と驚きと喜びと悔しさを感じつつ、次から次へと貪るように聴きまわりました。一つレコードと楽譜を借りては聴き、レコードの解説を読んでは、その作品が次にどのような作品に影響を与えたのかを知り、芋づる式に、次のレコードを借りては聴く、の繰り返しでした。探した資料は必ずありました。資料室は宝の山でした。“勉強”という意識は全くなく、ただただ未知のお宝との出会いを求めて、時間を見つけては足を運び、扉を開けるといつものカードの匂いが出迎えてくれました。

月日が経ち、くにたちの図書館で再び、否それを上回るワクワク感に出会えることとなります。音楽大学有数の所蔵数

を誇るだけあって古い資料はもちろん、新しい資料も充実したこの宝の山がそびえる恵まれた環境に身を置くことができる幸せに心躍りました。新しい資料カードがつねに追加されるからか、東京文化会館と比べ、幾分爽やかな匂いでした。

今あらためて振り返ると、私の音楽人生は図書館に支えられていたんだとつくづく思います。一昨年の改装ですっかりきれいになり、かつてのあの匂いはもはやありませんが、これからも変わらず私に手を貸してくれる頼もしい存在です。図書館で借りた楽譜を開いたときの感覚は、その作品との出会いの扉を開くだけでなく、それまでに手に取った多くの人たちの作品への様々な想いの形跡も感じさせる格別なものです。そんな、資料を介しての人との繋がりにも思いを馳せながら、これからもいろいろな作品との素敵な出会いをしていくことでしょう。

今の時代は、私の学生の頃と比べ、情報や知識が格段に得やすくなっており、さすがのくにたち図書館も、最新の情報にはなかなか追いつかなくなっているかもしれません。パソコンを開けば、YouTubeをはじめ数多のサイトからいくらでも情報を得られ、その利便さはありがたいのですが、やはり音楽作品にしっかり向き合う上では、図書館はなくてはならない存在です。

深緑のこの季節、玉川上水の遊歩道ではちょっとした森林浴ができますが、さしずめ図書館は知識“浴”の場といえるでしょう。学生のみなさんには、パソコンで情報を得るだけでなく、図書館との自分なりの関わり方を見つけ、この無尽蔵の宝の山にぜひ深く分け入ってほしいと思います。

●きくち ゆきお 本学教授(作曲)